

塾と家庭を結ぶエクシード通信 2010.JULY No.97

完全燃焼のサブライブルー

-ワールドカップ-に寄せて-

それは“チームの団結”を象徴するシーンだった。パラグアイ戦で120分の死闘をくりひろげ、それでも決着がつかずにPK戦。日本チームの3人目のキッカー駒野選手の自信をもって振りぬいたボールは、クロスバーをかすめて外れた。天を仰ぎ、頭を抱えた駒野選手に駆け寄った仲間が肩をたたき慰めた。

ゲームキャプテンの長谷部選手は、「だれが悪いというのではない。これまで決着をつけられなかった自分たちのせい」だと言い切った。「120分間のプレーはすばらしかった。胸をはって日本へ帰ろう」主将のゴールキーパー川口選手から声をかけられ、駒野選手はロッカールームで号泣したという。かってデビッド・ベッカムやロベルト・バジジオのようなスーパースターでさえPKを外したことがある。PK戦はサッカーでない。運がなかっただけだ。

駒野選手は、元来PKが得意で、公式戦で外したことは一度たりとない。だから岡田監督も大切な3人目に起用したのだろう。岡田監督の起用に間違いはないし、駒野選手も恥じることはない。

日本は、南米予選でアルゼンチンやブラジルに勝ったパラグアイに勝てなかったけれど、負けてはいなかった。この試合終始パラグアイに圧倒され、いつ点をとられてもおかしくないような状況だった。それがゴールキーパーの川島選手の好セーブや死力を尽くしてのディフェンスもあり、本当よくがんばった。

駒野選手も4試合に出場し、最後の最後まで走り続け、チームのベスト16進出に大きく貢献した。日本チームの選手の90分間あたりのチーム走行距離は10.72kmで、これはベスト16に進出したチームの中で6位にあたるという。岡田監督が言うように、「ハエがたかるように何度も何度もチャレンジしていく運動量」と「脈々と受け継がれた日本チームのサッカー魂」を発揮できた。



そして、その姿にはすがすがしい“敗者の美学”があった。

それにしてワールドカップ前は、国際試合で4戦全敗し、予選リーグ3戦全敗と予想する解説者も多かった。代表チームにはすごいプレッシャーがあったに違いない。特に岡田監督のバッシングはすごかった。そんな中での予選快進撃。ひさしぶりに胸がスカッとした。思うに、日本の選手は開き直ったのだろう。そして、前哨戦となる国際試合の敗戦が、逆にチームの団結力を一段と高めたに違いない。

敗戦の続く中、エースの本田選手は、「いいっすか」と言ってメンバーの部屋を回り、一人ひとりとひざを交えて話をしたという。

サッカーはチーム戦である。どんなに優れたスーパースターがいても、それを活かす組織力が必要だ。組織力を高めるには、選手スタッフなどとの信頼関係が必要だ。今大会、前回の優勝チームのド

イツ、準優勝チームのイングランドが相次いで破れた。この両チームは優秀なタレントを多く抱え、今大会でも優勝候補の一角に挙げられていた。だが、予選で敗退した。これはチームワークが備わっていなかったからではないか。

かって南米のある国では、PKをはずした選手が自国に帰ると射殺されたこともあった。駒野選手も「あの時は、もう日本に帰ることはできない」と思ったと言う。しかし、チームメンバーに励まされ前を向いて帰ってきた。そして、それを温かく迎えたサッカーファンがいた。

日本チームは、国を背負っている責任や誇りでなく、“闘志”をむき出しにして戦った。大会期間中にチームも選手も成長し、試合を重ねながら、組織力と守備を日本の形として作り上げていった。特に控え選手との一体感はずばらしかった。そして、新しい歴史を築いた。

関西空港での記者会見では、重圧から解き放たれた岡田監督の笑顔が印象的だった。選手インタビューでは、“一発芸”も飛び出し、チームの結束力を象徴するような場面もあり、それはまるでWBCの日本チームを思わせるようだった。

この結束力がある限り、日本チームの未来は明るいと確信した。

感動をありがとう。サムライ日本。

(ホームページ塾長 コラムより)

□2010年夏期講習

期間 7月20日(火)～8月28日(土)

※ 申込締切 7月15日(木)



■中3保護者会

7/17(土) 別府教室 午後7時～9時

7/18(日) 宝殿教室 午後7時～9時

中間・期末試験の分析(各中学校の特徴)・夏休みの過ごし方・私立高校・公立高校のレベルと志望校の選択のしかた・受験を控えての勉強の取り組み方・オープンハイスクールなどについて

■お知らせ

7/19(月) 海の日には休業します。振替日は7/29(木)です。

7/29(木)～31(金)は第5週目につき通常授業はありませんが、夏期講習は行います。

■高校入試土曜特別講座の開講のお知らせ

9月より高校入試土曜特別講座を開講します。これは入試に出題頻度の高い単元を強化し、入試に備えるものです。9月は4日・11日・25日に実施します。時間が午後1時半～5時半の4時間です。科目は文系・理系にばらばらに行きます。中3生は全員参加してください。

## ◎加古川西高校ボート部クオドルプルでインターハイ出場決定!

加古川西高校のボート部が快挙を達成しました。

先に行われた兵庫県高校総体の競漕「クオドルプルの部」で優勝し、8月下旬に沖縄で開催されるインターハイへの出場が決まりました。



クオドルプルとは、4人が漕いで、一人が舵をとる競漕をいいます。

エクスードの塾生の村山秀太君(2年)は、中学校では野球部に所属していましたが、加古川西高校に入学すると、心機一転ボート部に入部、クオドルプルの一員として猛練習を積み重ね、ついに兵庫県の高校チャンピオンの一員になったのです。

おめでとう!

全国大会での健闘を祈ります。



小学6年生が1年間勉強する総授業数が **390 時間**

夏休み、1日 24 時間のうち、睡眠時間 8 時間・食事、入浴その他の時間 3 時間かけたとしても、1日 **13 時間**は自由になる時間があることになる。これが40日間続くと、**520 時間**にもなる。

夏休み中、仮に1日 2 時間ずつ勉強すると、合計 80 時間。5 時間ずつ学習すれば合計で **200 時間**。これで何と、小学6年生の年間総授業数の約半年分に相当する勉強ができてしまうことになる。

早寝、早起き、午前中は必ず勉強にあてること。学校に通っている時と同じように**50分勉強、10分休憩**というのも一つの方法。

休憩時間はできるだけ好きなことをしよう。しっかりと気分をリフレッシュし、時間になったらすぐに勉強の集中するメリハリが必要。

夜ふかしをして昼前に起きてくるような生活パターンは禁物。規則正しい生活を送ることによって夏バテも予防できる。勉強と勉強のインターバルには、体を動かすこともいい。

3年で学習する内容は、中1.中2の基礎学力の上(立つもの)。1.2年の内容がキッチリ理解できていなければ飛躍は望めない。

「**すそ野の広い基礎学力は山(実力)を高くする**」

一流のスポーツ選手や芸術家は基礎訓練を大事にする。**公立高校の入試問題の 70%以上は、1.2年の学習範囲から出される。**

まとまった時間がある夏休みは、基礎固めの絶好のチャンス。

### ■夏期講習に向けて

#### (1) **明確な目標をもつー勝利にこだわる努力こそが宝物**

自分がどこの高校に行きたいのか。そのためには何を、どうすればいいのか。

次の学年順位は何番をとろう。得意な英語は10番以内に入るなど。具体的な目標を掲げ、「僕は絶対成績があがるように頑張るんだ」という強い気持ちを持つこと。つまりモチベーションの喚起と。それに向かって突き進む実行力が大切。

#### (2) **科目ごとに、苦手単元、分野を発見、克服する**

自分が得意な教科・単元、苦手な教科、単元をあげてみる。

例: 苦手な教科「理科」

単元名「電流」「天体」

夏休みに家庭学習が、**一日 5 時間 × 40 日間 = 200 時間**とすると、

これは、中学での 1.2 年生の 1 科目分の学習時間と等しくなる。だから、かなり苦手科目でも、頑張り次第で克服できる。

#### (3) **これまでわからなかった所を、整理し、徹底的に理解する。**

定期試験の問題をもう一度やり直すこと。もう一度やり直してみると、×のついていた問題はやっぱり解けないし、○がついていたものも忘れていたりしている。

### ■塾内模試 8/30(月)

小学生 1:00~2:30(算国)

中3生 1:00~5:00

5教科(英リスニング実施)

中学1.2年生 5:00~9:00

※中学生はコンパスと定規を持参してください。

### ■夏期講習の間、7.8月とも通常授業は実施します。

### ■質問日(ケアディー)

8/31(火)は質問日、全学年 14:00~17:00 の間、質問を受け付けます。

塾生の参加は自由です。

